

「地域・家庭・学校で育てる 返事と挨拶の力」

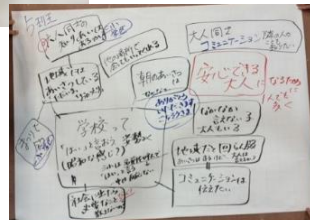
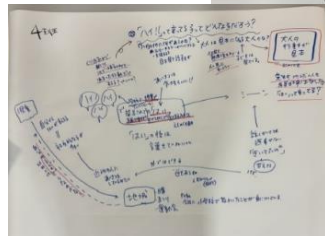
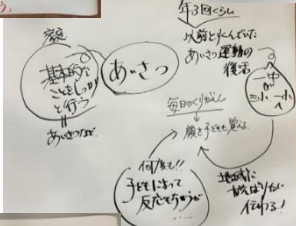
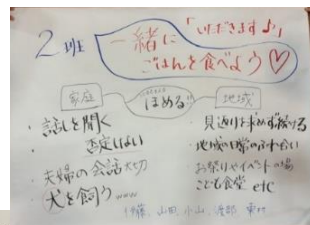
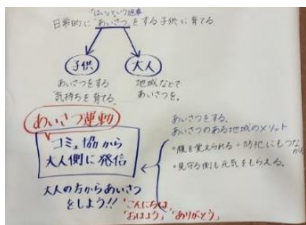
令和 8 年 8 月 3 日に「令和 8 年度 一中校区 3 校合同 学校運営協議会」が行われました。「授業で指名された時に返事ができる子どもを育てるために、地域、家庭、学校で何ができるか？」をテーマに、5つの班に分かれて協議が行われ、多様な視点から多くの意見が出されました。それぞれの内容を紹介いたします。

●1班：地域で広げる挨拶運動

新津中央コミュニティ協議会を中心に地域全体で挨拶を広げる取り組みを進めたいという意見が出ました。大人が積極的に声をかけることで、子どもも安心して挨拶しやすくなります。

●2班：安心できる食の場と家庭の関わり

家庭での会話や否定しない関わりが、返事と挨拶の力を育てます。家庭だけでなく、地域の行事や外で誰かと食べる場も、子どもの気持ちをほぐす大切な時間です。



●3班：挨拶活動の復活と継続

一中生が小学校へ訪問しての挨拶活動の復活案が出ました。顔を覚え合うことで地域のつながりが深まり、また、子どもたちの頑張りが地域にも伝わります。

●4班：返事と挨拶の力を育てる大人の姿

返事はコミュニケーションの入口。大人の行動が子どもの見本となり、日々のやり取りが子どもの態度に影響します。

●5班：安心できる大人と地域コミュニケーション

子どもが安心して挨拶できるためには、大人同士がつながり、地域の空気があたたかくなることが大切です。祭りや行事など、日常の関わりが子どもの育ちを支えます。

5つの発表から、返事や挨拶は安心できる人と人とのつながりの中で育つということ。大人の姿、地域の空気、子どもがほっとできる場が重なって、自然なコミュニケーションが生まれていくことがみえてきました。